

■ 多摩川ふれあい点検－多摩川水系河川整備計画を現地でフォローアップします

第5回 堤防の安全性 & 台風9号編

※ イベントの申込みは終了いたしました。たくさんのご応募ありがとうございます。

「多摩川水系河川整備計画」が、平成13年3月にできてから6年が経ちました。整備計画は、多摩川を愛するたくさんの市民と川の専門家と行政がみんなで川を歩き、意見を交わして作った計画です。平成15年度には河川整備計画のフォローアップが始まり、平成17年度からは河川整備計画フォローアップの一環として、市民と行政がともに河川整備計画での整備箇所を歩き点検する「ふれあい点検」を実施しています。平成17～18年度までに全4回の「ふれあい点検」を実施しています。第5回目は、堤防の安全性と台風9号後の宿河原堰の現場を点検箇所として巡ります。



日時

2007年11月25日(日) 13:00～17:00 **雨天中止**

行程

京王線・京王多摩川駅改札前集合→下石原地区(左岸)→上河原堰下流(右岸)→宿河原堰(右岸)→意見交換会(二ヶ領せせらぎ館)

お申込み先 (申込書をご利用下さい)

- 建設技術研究所環境部
ふれあい点検受付担当
TEL:048-835-3738 E-mail:fureai@tokyo.ctie.co.jp

お問合せ先

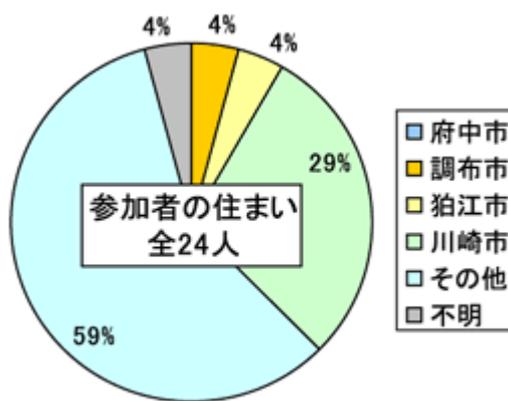
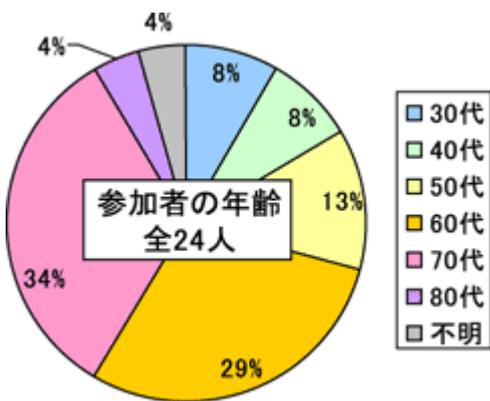
- 国土交通省京浜河川事務所
調査課 TEL:045-503-4008



点検箇所間はバスで移動します

第5回 堤防の安全性 & 台風9号編－開催報告

- 日時 : 2007年11月25日(日) 13:00～17:00(晴れ・最高気温18.0℃)
- 点検地点 : 下石原地区、二ヶ領上河原堰下流、二ヶ領宿河原堰
- 意見交換会 : 二ヶ領せせらぎ館にて
- 参加人数 : 24人



第4回ふれあい点検でも訪れた下石原地区では、当時工事中だった護岸工事の実施箇所において、護岸の完成状況と、台風9号の概要および台風9号による出水後の河岸状況を確認しました。



二ヶ領上河原堰下流では、堤防の安全性に関する堤防の点検調査とその結果、および堤防の安全性を確保するために実施している取り組みと現在行われている工事についての説明がありました。



台風9号の出水により河床のブロックが流出する被害を受けた二ヶ領宿河原堰では、被害状況や復旧に向



点検後、二ヶ領せせらぎ館にて意見交換会を行いました。今回点検した3箇所について、活

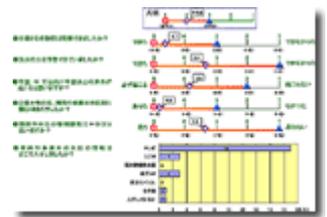
けて先に行ったブロック撤去の様子、および今後の対策について説明がありました。 発な意見交換がなされました。

第5回 堤防の安全性 & 台風9号編一点検の結果(各グラフはレポート巻末に添付しています)

台風9号について

● 主な意見

- ・ 温暖化で大規模な洪水が起こりやすくなっていると思われるので、整備できる箇所はできるだけ整備してほしい。
- ・ 治水事業は、継続して行わなければならないものだと感じた。
- ・ 洪水時に上流部・中流部・下流部に応じた情報があれば良いと思う。



◎ 点検からいえること

- ・ 出水時の降雨や河川の状況に高い関心が寄せられている一方で、情報提供のあり方に関してはもっと工夫が必要だと思われるようです。なお、ほとんどの方が情報収集にテレビを利用しているようです。

下石原地区の評価

● 主な意見

- ・ 高水敷を広くしたり、コンクリート枠内に玉石を詰めた護岸にしたりするなど、侵食対策に対してさまざまな工夫が凝らされていて良い。
- ・ 砂利が増えているが、特に右岸側の堆積量が増えたために左岸への水あたりが強くなったのではないかと感じた。



◎ 点検からいえること

- ・ 護岸を施工する際に施した工夫等については評価を頂きましたが、景観上の問題についてはまだ検討を重ねていく必要性を感じました。被災箇所をご覧頂くことで、侵食対策の必要性について理解を深めて頂くことができたことは良かったと思います。

二ヶ領上河原堰下流地区の評価

●主な意見

- ・かん入部があることによる危険性は、複雑で理解するのが難しいです。
- ・河床の上昇を防止する必要性を感じました。
- ・堤防が壊れる各種要因、メカニズムについて理解できました。
- ・河川の流れが堤防に衝突するときの力が大きい場合等、浸透や侵食以外の要因によっても破堤が起こるのではないのでしょうか。いろいろな対策を検討しておく必要があると思います。



◎点検からいえること

- ・浸透・侵食といった現象についてはご理解を頂けたようですが、それが工事としてどのように施工されているかについてはわかりにくようで、さらにわかりやすい説明が必要です。

二ヶ領宿河原堰の評価

●主な意見

- ・今回の宿河原堰の被災メカニズムや、復旧に向けての今後の対応について理解できました。
- ・もっと激流対策をしてほしいと思います。
- ・対策工法については、模型実験等の検討も必要なのではないのでしょうか。



◎点検からいえること

- ・市民の方々には、今後宿河原堰がどのような復旧対策が講じられていくのか、とても興味をお持ち頂いているようです。ホームページ等を活用して逐次ご報告して行きたいと思います。また、洪水時の流水の威力についても、感じて頂ける場所となりました。

■ 多摩川ふれあい点検NEWS・・・NO.5

第5回 堤防の安全性 & 台風9号編－意見交換会でいただいた主なご意見

<台風9号について>

- ・今回の出水では石原地点において流量 $3,900\text{m}^3/\text{s}$ で計画高水位を越えてしまったそうですが、整備計画では流量 $4,500\text{m}^3/\text{s}$ で計画高水位に達することになっており、流下能力が全然足りないのではないのでしょうか？。



→（回答）

現在は、まだ整備計画に従って堤防工事や浚渫など流下能力を確保するための工事を進めている段階であり、これらの工事がすべて完了したあかつきには、計画通り4,500m³/sの流下能力を確保できます。

<下石原地区について>

- ・今回点検した護岸は画一的で変化に乏しく見えたが、多摩川におけるほかの区間でもこのような護岸整備にするのですか？

→（回答）

下石原地区の護岸整備は試験的な面も含んでおり、必ずしも多摩川全川で同じような整備をするということではありません。ほかの区間に関しては、それぞれの場所に適した整備を模索しながら整備を進めていきたいと思えます。



<二ヶ領上河原堰下流について>

- ・現在、上河原堰において堰の堤防へのかん入部を撤去する工事を行っているということですが、そもそもなぜ堰をつくった当初に、袖部分をかん入させていたのですか？

→（回答）

当時は堰を堤防にかん入させる方が堰の強度を保つことができると考えられていました。しかしその後、粕江水害での二ヶ領宿河原堰による被災や構造基準の改正などを経て、基本的に堰を堤防にかん入させない方が洪水に対して安全だという考え方に改められました。



<二ヶ領宿河原堰について>

- ・今回被害を受けた護床工は、なんのためにあるのですか？

→（回答）

堰本体を守るため、堰上流の川底が極端に掘れないように、護床工で地表面を覆い、堰本体を守るためのものです。例えば今回は、護床工が堰本体の身代りとして被災を受けたといえます。

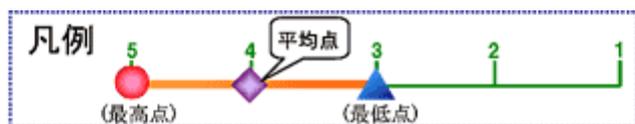


- ・ 災害復旧工事を行うということですが、前回と同じような整備をすると、再度出水が起こったときに今回と同様な被害が生じるのではありませんか？

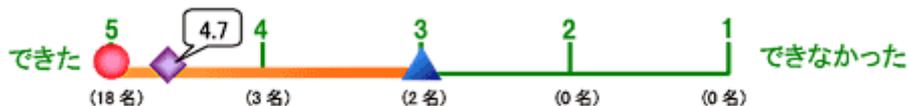
→（回答）

災害復旧工事においては壊れた護床工の復旧をおこない、今回の出水時と同様な被害の発生を防ぐために、川底の変化や洪水の流れに追従する形状にする工夫などを、今後検討し実施する予定です。





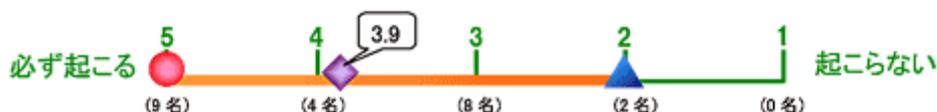
●台風9号の説明は理解できましたか？



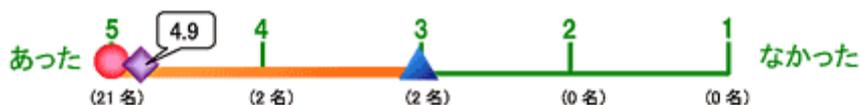
●洪水の力は予想できていましたか？



●今後10年以内に今回以上の洪水が起こると思いますか？



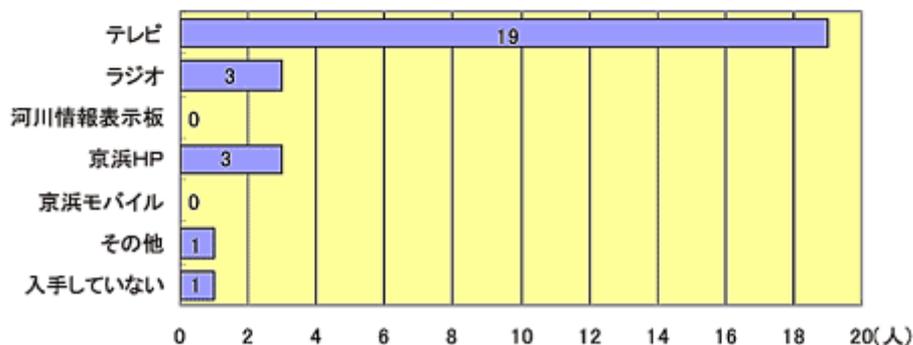
●台風9号の時、降雨や多摩川の状況に関心はありましたか？



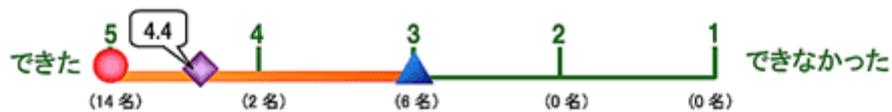
●降雨や水位の情報提供は十分だと思いますか？



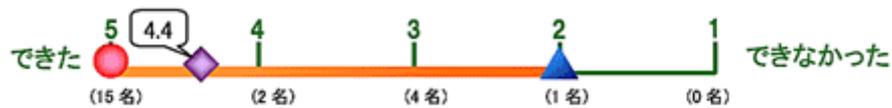
●降雨や多摩川の水位の情報はどこで入手しましたか？



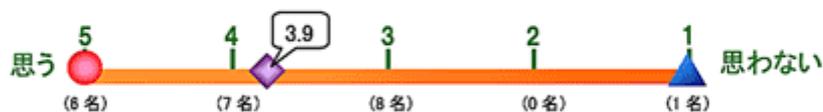
●多摩川の災害特性について理解できましたか？



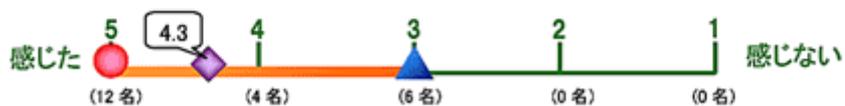
●侵食対策の必要性について理解できましたか？



●台風9号を経て、今回の護岸は安全だと思いましたか？



●護岸整備によって洪水から堤防は守られたと感じましたか？

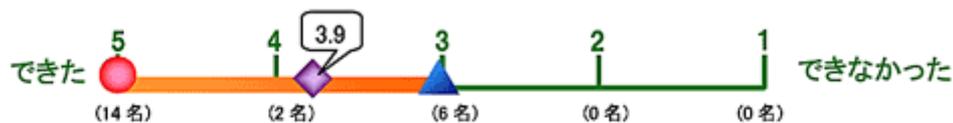


●総合評価

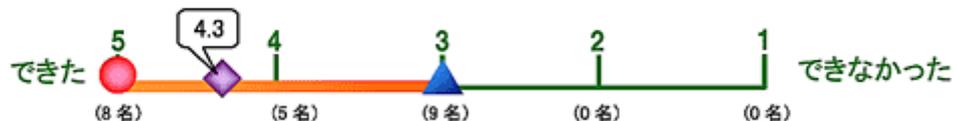


ニヶ領上河原堰下流地区の評価

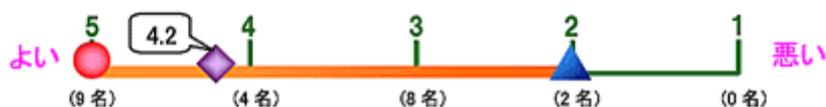
●堤防の安全性点検の目的や内容は理解できましたか？



●堤防強化対策の目的や内容は理解できましたか？

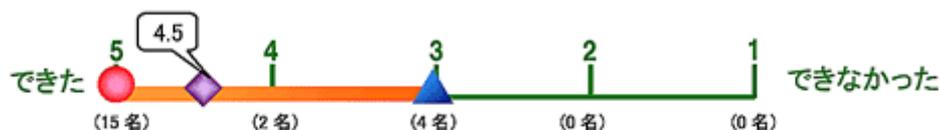


●総合評価

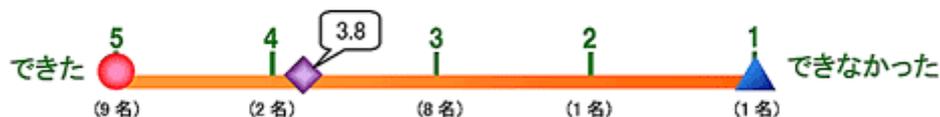


ニヶ領宿河原堰の評価

●台風9号による宿河原堰の被害状況は理解できましたか？



●今後の対策内容について理解できましたか？



●総合評価

